

令和2年度 ビジネス実務学科 FD・SD 研修会②報告

日 時：令和2年12月15日（火）15:15～16:15

講 師：ビジネス実務学科 准教授 若月博延

テーマ：データサイエンス教育の全国的な動向と学科のカリキュラム体系における位置づけ

参加者：藺森、藤元、加藤、井戸、越野、坂上、瀬戸、丹羽、廣瀬、矢澤

欠席者：高田

文部科学省教育改革の一環で、デジタル社会の基礎知識（いわゆる「読み・書き・そろばん」的な素養）である「数理・データサイエンス・A I」に関する知識・技能、新たな社会の在り方や製品・サービスをデザインするために必要な基礎力など、持続可能な社会の創り手として必要な力の養成を求めている。喫緊の課題として、全ての高等学校卒業生が、「理数・データサイエンス・A I」に関する基礎的なリテラシーを習得することが求められている。

本学でも、2020年度からビジネス実務学科、2021年度からは幼児教育、美術学科でも「データサイエンス」を冠とする科目が導入される。しかし、その中身は現状のリソースの中で行われているものであり、本来求められている「データサイエンス教育」の中身を知ることで科目の内容をよく検討する必要がある。

そこで、2020年10月15日、11月15日に行われた数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム中部・東海ブロック会議の内容を中心に、各校の取り組みを紹介した。また、2020年前期に行われたビジネス実務学科の「データサイエンス」の内容も披露し、本学での課題も提示した。

